

寒川町みんなの地域福祉つながりプラン（第4次寒川町地域福祉計画・第5次寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画）【令和3年度進行管理表修正】

基本目標2 みんなでつながり支え合おう

施策の方向性 ③地域で気づき合おう（地域関係者との連携による生活課題の早期把握）

計画に記載している方向性		
①地域住民への的確な援助、相談、指導等を行うために、民生委員の研修会等に対して補助を行い、相談対応力の向上を図っています。		
②「広報さむかわ」等で各地域関係者について周知し、相談しやすい環境をつくっています。		
③自治会や民生委員、保護司と連携を図るとともに周知を行い、支援を必要としている人たちが適切な支援を受けられる環境をつくっています。		
	できたこと・やったこと	課題
結果	<p>支援地域における取組</p> <p>①民生委員の事務局として研修についてサポートを実施した。コロナ禍により対面だけでなく、オンライン研修等の機会も増加した。</p>	○コロナ禍により対面研修の機会の減少や実施方法等の検討が必要なこと。また、外部への研修依頼等の実施が難しい。
	<p>②令和4年2月号に民生委員に関する特集記事を掲載し、住民に対する周知を行った。</p>	○広報を実際に見ない年代については民生委員について理解が進まないため、他の媒体で周知も必要。
	<p>③社協の取組みの説明や協力依頼のため、町自治会長連絡協議会定例会や町民生委員児童委員協議会役員会、定例会等に出向いた。また、「高齢者の役に立つ情報を提供して欲しい」という依頼で町シニアクラブ連合会の会長や研修会、単位クラブに出向いて説明を行った。他に町内関係機関や団体への会議に委員として参加し情報を共有し連携を図った。</p>	○民生委員と社協のつながり、関係づくり。貸付の相談の時だけ民生委員が関わるというような限定的なことではなく、民生委員には社協のことをよく知ってもらえるように積極的な情報共有と関係づくりをすることが必要。
	<p>③学校と連携を行い、小中学生を対象に福祉作文の実施や福祉教育を実施し、子どもの頃から福祉について興味を持ってもらい地域福祉への理解を深める取り組みを実施した。</p> <p>○サポートさむかわ（ボランティアによる在宅生活のお手伝い）により、地域での困りごとを解決した。コロナ禍ではあったが、活動に制限を設けず行った。ボランティアが訪問することで信頼関係が生まれ、生活課題の把握から新たな支援へとつながった。 利用件数102件</p>	○サポートさむかわを必要としている人への周知。また、担い手であるボランティアの確保。
総合評価：【○】 評価区分{◎：計画以上の効果が表れている ○：おおむね計画通りである △：遅れているまたは未実施}		
評価理由：対面での支援や会議が難しい場合は、オンライン等の他の方法を積極的に導入して実施したため。また、感染対策を実施し、実際に対面での支援や関係づくりを行えたため。		
今後の方向性：【継続】 区分{拡充・継続・縮小・廃止}		
今後の取組等：町民生委員児童委員協議会と、より積極的に顔の見える関係を作るため、社協職員の定期的な定例会への出席。民生委員等の地域支援者との一層の連携。		